かわら版小石川後楽園

第４２号

平成２６年
９月１０日
発行

待ちわびる秋

　九月になって、夕方の雲や虫の声に、何となく秋の気配を感じるようになりました。

　毎年、多くのお客様にお楽しみ頂いている〝曼珠沙華（マンジュシャゲ）〟の季節もそろそろ。

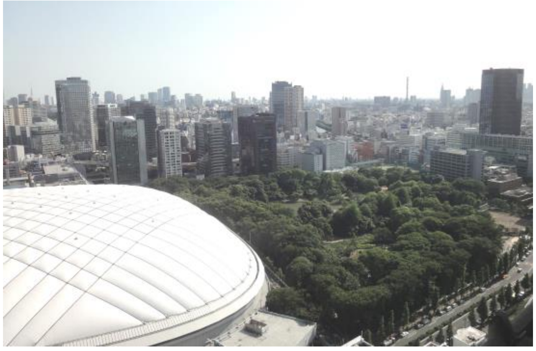
　別名では〝彼岸花（ヒガンバナ）〟と呼ばれるこの花は、その名の通り、彼岸の頃に咲き出し、緑濃かった風景を赤く染め上げる小石川後楽園の秋を代表する花です。

　『暑さ寒さも彼岸まで』と言われていますが、彼岸花が咲き出す頃には、気候も落ち着いてくれると良いですね。

　開花状況は、今年もツイッターやホームページ、お電話等でご案内致します。夏の疲れも吹き飛ぶような鮮やかな赤色を、ぜひお楽しみください。

小石川後楽園のちょこっと雑学辞典⑫

【水戸藩上屋敷】



文京シビックセンターより撮影

　江戸時代、大名たちは藩主が住み、各藩の江戸役所の役割も持った「上屋敷」、隠居した藩主や世嗣（跡取り）が住む「中屋敷」、別荘の様な役割を持った「下屋敷」と、江戸に三つの屋敷を構えました。それぞれ庭園を併せ持つものも多く、当時、江戸には千を超える大名屋敷があったともいわれています。

　小石川後楽園は、当初、水戸藩中屋敷の庭として造られ、その後、中屋敷が上屋敷“小石川邸”になりました。総敷地面積は約２５ha、東京ドーム（４．７ha）５個分よりも広く、現在７ha ある当園の３倍もの広さでした。東京ドームのある辺りに、藩主の住む御殿があり、敷地内には家臣の住む「長屋」や畑などもあったそうです。

　水戸藩の中屋敷は“駒込邸”とも呼ばれ、現在の東京大学本郷キャンパスの浅野地区、弥生地区と隣接する住宅地の辺り、また、“小梅邸”と呼ばれた下屋敷は向島一丁目周辺に位置し、現在はその半分ほどが隅田公園になり、人々に憩いの場を提供しています。

小学生の稲作体験２０１４・その②

稲を守るぞ！案山子作りの巻

　今年も、文京区立柳町小学校５年生のみなさんが植えてくれた稲が実りの秋を迎えています。

　９月４日、案山子（かかし）作り体験が行われ、愛嬌ある“稲の番人たち”が田んぼの周りに登場しました。

　園内の田んぼは、水戸二代藩主の光圀が嗣子（世継ぎ）・綱条の公家出身の夫人に、農業や米作りの大変さを教える為に造ったもの。今では、夫人に代わって小学生達が稲作のイロイロを体験しています。次は稲刈り体験、下記の日程で行われる予定です。今年も大豊作になります様に！

●●小学生の稲刈り体験●●

日時：９月２２日（月）
　　　１０時～１１時３０分（予定）

※雨天の場合は延期（実施日未定）

小さな雑記

　水戸藩中屋敷跡を訪ねた盛夏の午後、集合場所にジャージ姿で颯爽と現れた原先生。埋蔵文化財調査室の先生だけに、背中にはヘルメットも。〝一体何処に案内して頂けるのだろう？〟ドキドキです。

　今は失われた屋敷も想像できるよう、先生の案内は続き、私は小石川後楽園を想います。こんな都会の真ん中で、良く生き残ってくれました。作庭当時とは変わっている事も多いのでしょうが、私たちは実物を見て感じることが出来ています。ここで百年、二百年後を生きる人達が、今と同じような景色を見てくれることを願います。

twitter　検索→**都立庭園　園長の採れたて情報**

ホームページ　検索→庭園へ行こう　**見てね！**

小石川後楽園　ゆかりの園探訪・その二十一

　今回は東京大学埋蔵文化財調査室・原　祐一先生のご案内で、水戸藩中屋敷跡から上野不忍池へ「想像する街歩き」。お殿様たちが暮らし、そして、愛でた風景を訪ねました。

台東区　都立上野恩賜公園不忍池

　縄文時代、東京湾の入り江だったこの周辺は、海岸線の後退と共に取り残され、池になったと考えられている。

　江戸幕府は、この地に東叡山寛永寺を建立し、西の比叡山延暦寺に対応させ、１５世紀頃には既に「不忍池（しのばずのいけ）」と呼ばれていた池を琵琶湖に見立てた。

　江戸時代、現在の文京区本郷にある東京大学周辺には、加賀、富山、大聖寺や水戸などの藩邸があった。『忍ヶ岡』と呼ばれる上野の岡から見て、向こう側の岡を示す『向ヶ岡』と呼ばれ、それぞれの屋敷がその地形を巧みに活かし、不忍池の景観を楽しめるようにも設計されていたそうだ。が、明治時代の始まりと共に、藩邸は姿を消した。立派であったろう建物も、不忍の池を借景にしたかもしれない庭も、今は想像してみるよりほかはない。

　「この道が、現在のこの辺りだから・・・」導かれ、古地図を手に東大キャンパスから、住宅地の中へと歩き出す。

　水戸二代藩主光圀が完成させたといわれる小石川後楽園は、中国杭州、風光明媚な西湖を模した「西湖堤」等、中国趣味が随所に取り入れられている。また、地元の水戸では、千波湖を西湖に見立てたという。そして、向ヶ岡に建てられた駒込邸から臨む不忍池にも、西湖の面影を重ねたそうだ。光圀が求め続けた美しい風景・・・。

　九代藩主に就任する前の齋昭が《向岡記》碑文の中で、駒込邸から臨む景観を称賛し、弥生（三月）の歌を詠んだ。

　名にし負ふ　春の向岡なれば　世に類（たぐひ）なき　花の陰かな

　明治５年、駒込邸跡地は碑文の“弥生”と“向ヶ岡”を合わせ、「向ヶ丘弥生町」と名付けられた。また、明治１７年、町内で発見された土器は、碑文由来の町名から「弥生式土器」と呼ばれ、「弥生時代」の名称由来となる。

　「明治時代、この辺りに射的場があって、あちら側に向かって狙撃演習をしたようです。」今は、そんな時代を、想像する事すら出来ない静かな住宅地を進み、大きな建物が増えたなと思う頃には、もうすぐそこは不忍池。その奥には、光圀も齋昭も目にする事がなかったスカイツリーが静かに佇む。西日に照らされ、池の豊かなハスの葉たちも、少し暑そうな顔をしている夏の夕暮れ。（担当：倉田美咲）

お得な年パス

小石川後楽園パスポート
No.
写真貼付
(2.5cm×2cm)
迄
氏名
性別
男・女
年齢
歳
一般 1,200円
公益財団法人東京都公園協会

●小石川後楽園用●
一般：１、２００円
６５歳以上：６００円

好評発売中

毎週土曜日
午前１０時～
英語による庭園ガイドツアー（無料）、開催中！

かわら版についてのお問い合わせは　小石川後楽園サービスセンター　03 (3811) 3015

お客様サポートセンター（協会の事業全般に関するお問い合せ）TEL　03(3232)3038　※8：30～17：30（土日・祝日、年末年始を除く）指定管理者　公益財団法人　東京都公園協会